

大学を知る・学部を知る②⑨ 先輩のいる大学⑮

埼玉県立大学

ロケが行われるおしゃれなキャンパス

保健医療福祉学部と短期大学部の統合再編により作られた大学。埼玉県越谷市にある。キャンパスは「のためカンタービレ」や「相棒」のロケ地でもある。

●保健医療福祉学部 学科定員 計 395 看護 130, 理学療法 40, 作業療法 40, 社会福祉子ども 70 < 社会福祉学 50, 福祉子ども学 20 >, 健康開発 115 < 健康行動科学 45, 検査技術科学 40, 口腔保健科学 30 >

看護学科では、心身の健康と生活の質を高める働きかけができる専門職業人としての基礎力を育てるために、マルチメディアを導入して主体的に学ぶ学習環境を提供する。問題解決型学習を導入し、少人数による教育方法で手厚い教育指導を実践する。

理学療法学科では、科学的な知識と技術を身につけ、心のこもった理学療法を実践できる専門家を育成する。機能診断や、理学療法を症例に応じて実践するための専門知識・技術を身につける。さらに、深い洞察力和人間理解に裏づけられた面接技法も修得する。

作業療法学科では、人々の生活を科学的・分析的・創造的に支え、幅広く活躍できる作業療法士を育てる。作業療法の適用と実践について講義・演習を通して専門性を高め、さまざまな分野の病院や施設で実習を行い、より実践的な作業療法を身につける。

社会福祉子ども学科は、2専攻制。社会福祉学専攻は、社会福祉の高度な知識と技術を持ってソーシャルワークを実践できる人材を、福祉子ども学専攻は、福祉と保健医療分野との連動を踏まえた幼児教育や保育を実践できる人材を育成する。

健康開発学科は、人間の行動・生命の情報・口腔機能の3領域の専攻を開設している。健康行動科学専攻は健康にかかわるさまざまな因子に健康科学・情報科学・行動科学の分野からアプローチする。検査技術科学専攻は、専門知識・技術を修得し、高度先進的な検査業務に対応できる能力を養成する。口腔保健科学専攻は口腔領域から健康を推進するスペシャリストを育成する。

春雨や身をすり寄せて一つ傘

新型コロナウイルスが世界中に感染拡大し、国内でも情勢が深刻化、TVやネットで見ていたことが身近に感じられるようになってきた今日の頃です。

元気にはしていますか？ずっと心配しています。4月8日から3日間、みんなの声で満ちあふれた学校は本当に活気に溢れていて、これぞ学校という実感を新たにしました。2年生として教室の

位置も変わり、教室の窓から見える風景も変わり、教室内の級友の顔ぶれも変わり、「新学期」という決意も新たにしてくれていたことと

不思議なものです。学校に行けなくなったことで逆に学校の意義を感じているのではないですか。動画授業の視聴も可能だけれど、学校という「場」に「身体」を置いてこそはじめて出来る勉強であることを痛感していることと思います。世界中でオンライン授業が検討・実施されていますが、実際の学校の授業に比べれば格段の差があることを世界中の児童・生徒が痛感していることでしょう。

先日、八田先生がこんなことをおっしゃってました。「BBCで、『ソーシャルディスタンスが必要な今だからこそ、心のつながりを大切にしよう』という話が繰り返し語られていました」と。ここでのBBCは、県内の某放送局ではなく、British Broadcasting Corporation 英国放送協会のことです。世界中を襲うコロナ禍が、ともすれば社会的排除・分断をもたらすことを懸念しての呼びかけを行っているのです。福島県いわき市では、毎週金曜日に1分間医療従事者へ感謝の意を表明する取り組みを始めたそうです。このコロナ禍で厳しい状況に置かれた人は沢山います。厳しい状況下で仕事に従事して下さっている方も沢山います。「お互いさま」という観点を忘れないで、決して差別や偏見に基づいた行動をしないように心したいものです。

人に貸して我に傘なし春の雨

「春雨や身をすり寄せて一つ傘」という俳句は、1979年から大連と友好都市関係を築いてきた北九州市が「山川異域、風月同天」と記してマスクを送ったことに感謝して、大連市から送られたマスクの箱に記されていたものです。箱に書かれていたこの句には背景があって、夏目漱石が「人に貸して我に傘なし春の雨」と詠んだ俳句に対して、当時結核で闘病中であった正岡子規が「春雨や身をすり寄せて一つ傘」と詠んで返した句なのです。夏目漱石と正岡子規の友情については、『坂の上の雲』のDVDをご覧ください。（これはめっちゃオススメです。日本史の明治時代が完璧になります。）

知らずして我も撃ちしや春閑くる

バーミヤンの野に御仏在さず

「身をすり寄せて一つ傘」という言葉が、このコロナ禍の中で身に沁みます。グローバリ社会ということは、地球という「一つ傘」で「身をすり寄せて」生きていくことなのではないでしょうか。世界中で様々な事件・事象が起りますが、それに対して対岸の火事ということはもはやありえない。1年次の探究の時間で取り組んだSDGsの思想の基になった「人間の安全保障」もそうした観点に立つものです。

「身をすり寄せて一つ傘」で生きていく感覚こそ、グローバリ社会で生きていく皆に不可欠な国際感覚です。

「知らずして我も撃ちしや…」の短歌は、上皇后美智子さまの御歌です。アルカイダによって爆破されたバーミヤンの石仏群を見て、お



詠みになった短歌です。春爛漫のバーミヤンの石仏群がアルカイダによって破壊され無残な状態になっている。直接攻撃したのはアルカイダだけれど、そうしたテロが発生するに当たって、遠因ではあっても自分も加担していたのではないだろうか？という上皇后陛下の思いが、「知らずして我も撃ちしや」という上の句に込められています。無残にも破壊された石仏とうららかな春の対比の中で、この惨事に決して傍観者であってはならないという強い思いが読み取れます。

先日紹介した緒方貞子さんから、難民問題について進講を受けていた美智子さまならではの御歌で、そこには「身をすり寄せて一つ傘」で生きていく国際感覚が表現されています。上皇后美智子さまの御歌は、『瀬音』という歌集として編まれ、何れ国語にも翻訳され、絶賛されていますが、この御歌は其中でも最も際立って評価が高い御歌とされています。



身体を動かす！そこで考える！

休校になってから、定期的に身体を動かしていますか？1年次の現代文「イスラム感覚」でやったように、人間の植物的側面として体内のものを滞らせないことは大切なことですよ。「運動する、働く、家事をする、その中で考える」という基本的なことこそ、すべての源です。

最近読んだ『日本再生の基軸』（寺島実郎 岩波書店）という本の中に、著者寺島さんと内田樹さんの次のような対談がありました。興味深かったので挙げておきます。

全体知と、重心を下げて考えること

寺田：1902年からの20数年間は、日露戦争を乗り切った成功体験としての日英同盟があり、戦争を挟んでダッチロールし悲惨な体験をして、敗戦後の1945年以降、51年からの日米安保体制は、新手のアングロサクソンの国であるアメリカとの同盟です。英米の関係がおかしくなると、アジア返りしたり、突然「大東亜共栄圏」と叫んでみたりするけど、日本外交の軸は長くアングロサクソン同盟だったのです。

この来歴を忘れた、欲に吸い寄せられるようなご都合主義的なアジア論からは何も生まれてこないでしょう。内田さんの言われた共同体的な世界観、アジアとの相互理解と相互利益を実現して行くには、日本が自らを省みて、重心を下げて真に向き合っていく覚悟が必要なのです。

寺田：内田さんは『武道的思考』（2010年、筑摩書房）で、「心身の感知能力」という言葉を使われていますね。実はこの後、デジタルエコノミー、デジタルトランスフォーメーション、AI、シンギュラリティーという時代に入っていくとき、それ故にそれこそ生身の人間としての体力、知力が強く問われると私も考えています。コンピューターに命題を与える役割と能力、つまり課題設定能力ですが、そこには全体知が非常に重要になってくる、まさに心身の感知能力が鍵だという気がするのです。

内田：子どものころから武道が好きでしたけれど、25歳からはずっと合気道を稽古してきました。大学を卒業して無業者としてぶらぶらしていた頃でしたけれど、その頃にこんな生き方をしていたら、いずれ大変なことになるという自覚がありました。若い頃は時

代のせいもあって、とにかく攻撃的な人間だったんです。あらゆるものに噛みついてた。屁理屈をこねたり、寸鉄人を刺すような言葉を操るのは得意だった。でもそうやって人を傷つけ、愚弄し、冷笑している生き方にさすがにうんざりしてきた。どこかで仕切り直しをして、師匠について、一から自分をたたき直して修業したいという気になった。自分を型にはめて、制御しなくなったのです。だから、職人になるのでも、伝統芸能を習うのでも、お寺に入るのでも、何でもよかった。師匠に就いて、根性をたたき直してほしかったんです。幸い、25歳の時に素晴らしい武道の師匠に出会うことが出来た。孫悟空が三蔵法師に頭に輪っかを嵌めてもらったようなものです。これから僕が道を外しそうになったら、この輪っかがきりきりと頭に食い込む。そう思ったらほっとした。それから45年間、倦まず弛まず稽古してきました。

日本の伝統的な武道は本来、自分自身の生きる知恵と力を高めていくための行であって、強弱勝敗を競うものではありません。他人との相対的な優劣を争うのではなく、ひたすら自己陶冶に専念する。寺島さんはさきほど「重心を下げる」という言い方をされましたが、武道は、頭で作り出した科学や哲学の理論や概念を通して世界を見るのではなく、理論的に整序されたり概念化されたりする以前の生々しい世界と関わる技術だと思います。何か起きているかわからない時でも、どこにいて何をしたいのか生物的に直感できるようになるのが修行の目的なんです。

寺田：人間としての構えが、感知能力につながるのでしょうか。

それは個人が危機やあるいは時代に向き合うスタンスとしてだけでなく、国や企業や社会を考えても、賢く敵をつくらないというスタンスや、隙をつくらないということにも繋がっていきます。さらにいえばものすごく強靱な軍事力をもっているよりも、国としての賢さが問われていく時代という認識に通じるものがありますね。いや通じるところか、そのものだという思いで受け止めました。

（『日本再生の基軸』岩波書店 寺島実郎）

外に出られない日々が続いて、ちょっと苦しくなった人、散歩したり（山中教授のHP参照）、家事を積極的に行って身体を動かして下さい。田畑の空気や、洗濯や掃除などによる目に見える実績は、予想外に癒やしになるものです。良い日々になるようにしてくださいね。

問 13～14世紀を「モンゴル時代」ととらえる見方が提唱されている。「大航海時代」に先立つこの時代に、モンゴル帝国がユーラシア大陸の大半を統合したことによって人・モノ・カネ・情報が盛んに行き交うようになったことを重視した考え方である。この時代に、東は日本列島から西はヨーロッパにいたる広域において見られた交流の諸相について、経済的および文化的（宗教を含む）側面に焦点を当てて、以下の8つの語句を一度は用いて論じなさい。

ジャムチ 授時暦 染付（染付磁器）ダウ船
東方貿易 博多 ペスト（黒死病）モンテ＝コルヴィノ
（東京大学 2015年度前期 世界史問題 一部改題）